

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛驒特別支援学校高山日赤分校

学校番号	119B
------	------

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～	
評価する領域・分野	キャリア教育	
現状及びアンケートの結果分析等	当校には重度の障がいのある児童生徒が多く、卒業後の生活については個々のニーズに応じて考えていく必要がある。そのために職員、保護者が進路についての情報を得て、関係機関と連携しながら取り組んでいくことが必要である。アンケートでは、保護者への進路に関する連絡や情報提供、将来を見通した支援、一人一人の特性や願いを踏まえた進路支援について、改善されてきてはいるものの、まだ十分ではない結果となっている。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等部のキャリアアップウィーク(校内作業実習、事業所見学、現場実習)の取組について、保護者や職員への周知を図る。 ・ 保護者や職員が進路支援に関して学ぶ機会を設ける。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等部キャリアアップウィークの実施と取組の紹介 ・ 生活進路支援部による保護者や職員への進路情報の提供や、進路研修会の実施 	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路通信の発行 ・ 小・中学部や保護者への作業製品の配付会の実施やキャリアアップウィークの取組紹介 ・ 職員の事業所見学の実施 ・ P T Aと連携した保護者研修会の実施 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後の生活をイメージし、日々の支援につなげたり、保護者と懇談したりすることができたか。 ・ キャリアアップウィークの取組について、具体的に知り、理解を深めることができたか。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当校の進路支援の流れを進路通信として、前期の懇談で保護者に示し確認をした。 ・ 高等部生徒が校内作業実習で作った製品を、小・中学部の児童生徒や保護者に配付する場を設けた。 ・ キャリアアップウィークの取組を、小・中学部の児童生徒や職員、保護者に動画や掲示等により紹介した。 ・ キャリアアップウィークでの事業所見学は、それぞれの希望に応じた事業所見学を、生徒、保護者、職員で行った。 ・ 職員研修として、当校の生徒の進路先として考えられる事業所見学を行った。 ・ P T A活動として、「卒業後の生活をみすえて～相談支援の立場からサービスと制度について」をテーマに、高山市の福祉サービスについて外部講師による研修会を実施した。 	
評価の視点		評価
① 進路支援について理解を深め、保護者と連携して取り組むことができたか。		A (B) C D
② 生徒や保護者は、卒業後の生活について見通しをもつことができたか。		(A) B C D
成果・課題		総合評価

<p>○研修会や事業所見学により、具体的な卒業後の生活をイメージすることができた。また、高等部生徒、保護者は、希望する事業所の見学や現場実習により、それぞれに応じた進路を考える機会となった。</p> <p>○作業製品を小、中学部の児童生徒や保護者に配ったり、キャリアアップウィークの取組を紹介したりしたことで、学校での具体的な取組の周知を図ることができた。</p> <p>▲当校の児童生徒の病障がいの状態は様々である。今後も、保護者、関係機関ときめ細かい連携をし、一人一人に応じた適切な進路支援を行っていく必要がある。また、小学部段階からの進路支援を、学校全体で構築していくことも必要である。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先との連携を図るため、在学中から保護者も含めて情報共有する機会を設ける。 ・キャリア教育の発達段階表を作成し、小学部段階から卒業後をみすえた支援を継続できるようにする。 ・生活進路支援部を中心に、関係機関の情報収集を行い、保護者や教員に提供していく。また、事業所見学や研修会を行い、理解を深め、よりよい進路支援につなげる。

学校関係者評価 (令和5年2月28日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアアップウィークで、小中学部から学校の進路教育の取組を周知することは、保護者にとって先の見通しが立ち、大変良いことだと思う。 ・学校卒業後の生活がイメージできることがとても大切だと感じている。自分たちもそのイメージを共有できるとよいと思う。 ・在学中の取組は充実されていたと思う。希望する進路先の確保のために、本人、保護者、行政、関係機関等と一緒に、安心した進路が選択できるような地域にしていく取組が必要になると思う。 ・卒業後の進路について、福祉課との懇談の機会を設けたらどうか。可能なら卒業生の保護者にも参加していただくことで、卒業後の生活の現状を知ったり、卒業後の見通しが立ちやすくなったりするのではないかと。行政に現状を知ってもらい、アドバイスをいただくこともできるのではないかと。 ・学校卒業後の進路の選択肢が限られており、地域における社会資源を増やしていく取組が重要になる。具体的には、デイサービス、自立訓練、生活介護等のサービス拡充、就労継続B型での受け入れ体制の整備等があげられる。そのためには、学校のみならず、障がい団体、家族会を通しての提言、地域自立支援協議会への提案等が有効かと思われる。 ・ライフサイクルにおける社会体験の機会の提供やメンタルサポート等は、学校におけるキャリア教育においてますます重要になってくると思う。このことにより、学校という守られた環境から出た際の適応力や耐性が身に付くと思われる。 ・児童生徒はもちろん、将来について多くの不安を抱えていると思われる保護者に対しても寄り添ったサポートが必要であり、今後も学校全体で一体的な取組を継続していただきたい。
